

●環境目的税の導入

財源の確保のために、環境に負荷をかけるものに対し税をかける「環境税」を導入してはどうかでしょうか。その収入で環境に優しいといわれる路面電車の設備投資に使用する。自分の子どもたちの世代にきれいな環境を残せるのなら、反対する人はいないでしょう。

(北区 年齢不詳 女性)

●運行時間の延長

終電の時間が十一時十分とは早過ぎます。週末だけでも、一時間くらい延長して、ススキノの帰りや都心で働く沿線客の利用を促すダイヤ改正が必要です。

(手稲区 阿部豊さん 26歳)



●内部努力でお金をかけずに

広報を見るまで、路面電車が存続廃止の危機に見舞われているのを知らなかったので大変ショックでした。厳しい財政の中、

営業するのは困難だと思えますが、「税負担をできる限り少なくする方法」で存続していくことを検討してください。市電が走る札幌の街の風景を失うのは悲しいです。

(豊平区 三十代 女性)

●新型車両の導入

JR北海道が開発した、道路はタイヤで、線路は車輪に切り替えて走行する「デュアルモードビークル(DMV)」という車両を利用しない手はありません。すすきの〜西4丁目もDMVを導入すれば、線路を造らずに環状化できます。

(清田区 赤塚宣昭さん 30歳)

廃止

32件

●廃止してバスに転換

(12件)

沿線住民の年齢層や利用状況を考慮すると、利用者が急増することは考えにくい。よって、利用状況を調査し、効率の良いダイヤによるマイクロバスの運行に移行して、コストの削減を図るべきである。

(中央区 真門武郎さん 50歳)

●ほかの施策に予算を

環状化しても、電車を使って行く「施設」が路線周辺にないため、乗客増は望めません。そして、二億円もの税金を補ってもまだ、一億円の赤字。地球に優

しいとはいえ、これからも赤字をずっと税金で賄うには、利用していない市民にとって納得がいきません。市電に補助していた二億円は、すべての市民のために、ほかの施策に使ったほうがよいです。

(東区 四十代 女性)

●路面電車はシンボル?

函館なら路面電車が街のシンボルだと知っていますが、札幌と聞いて路面電車を思い浮かべる人はいないと思います。赤字が出ているなら、廃止してもよいと思います。

(東区 松野哲弘さん 32歳)

●市民全体の利益に反する

路面電車は、極めて狭い一部の地域住民だけがその恩恵にあずかっている乗り物です。市の財政赤字の一端になっているのであれば、「市民全体の利益」から廃止するのが当然です。

(西区 六十代 男性)



市長
から

存続・廃止の方向性の決定に向け より具体的な検討を行います

7月号の特集「みんなで考えよう 路面電車のこれから」に、多くのご意見をいただき、ありがとうございました。

今回寄せられたご意見では、路面電車の存続の声が多いことが分かりました。市では皆さんから寄せられたご意見を踏まえ、今後、施設更新のための費用負担や、経営のあり方などについて、より具体的な検討を行っていきます。

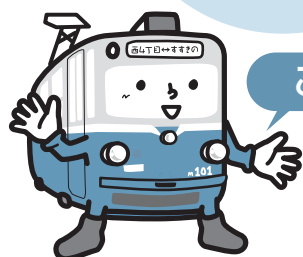
11月には2回目の市電フォーラムを行い、皆さんとともに課題や方向性を議論。来年3月には、具体的な方針を発表したいと考えています。

市では引き続き、検討を進めていきますので、路面電車についてさらなるご意見をお寄せください。

札幌市長 上田 文雄



ご意見はこちらへ



ご意見は、①存続か、廃止か、②その理由や条件、③路面電車の利用状況(年〇回、月〇回など)と、住所、氏名(ふりがな)、年齢、電話(ファクス)番号を記入し、はがき、封書、ファクス、Eメールでお寄せください。
〒060-8611 中央区北1西2 交通企画課 F A X 218-5114
Eメールアドレス sogokotsu1@city.sapporo.jp